

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

東京は本社の空洞化に直面

1. 日本を代表するオフィス街、東京・丸の内。ここに本社を置くことは、功成り名遂げた企業の証しであり、全国の経営者の夢でもあった。ところが、丸の内では 2012 年開業した大型オフィスビルに空室が目立つ。東京中央郵便局を建て替え、2012 年 5 月に完成した 38 階建て「JPタワー」の入居率は 6 割という。常時満室で入居が難しかった丸の内に、かつての面影はなくなった。
2. 「丸の内の顔」である三菱グループでも、本社や事業の本社機能を移す動きがある。三菱の源流企業、日本郵船は 2 年前、コンテナ船事業の運航・収支などを管理する本社機能をシンガポールに移した。旭硝子は 2009 年、海外比率が高いガラス事業の本社機能をベルギーに集約。2012 年 7 月には三菱製紙が都心から離れた墨田区両国に本社を移した。販売先はグループや国内からアジアに広がり、日本一賃料の高い丸の内にいるメリットは薄まった。
3. 内需が伸びている時代、東京は最大の需要地であり、都心に本社を置けば系列企業や官公庁、銀行とのパイプも作れた。だが、グローバル化で状況は変わった。生産や市場は海外へ移り、東京は本社の空洞化に直面する。2011 年までの 10 年で、8823 社が東京から東京以外の国内へ本社を移転したという事実は重い。

(参考:「日経ビジネス」2012 年 12 月 17 日号)

経営者のための理念・哲学

リーダーの必須条件「修身」

1. 古来、リーダーたる者には必須の条件がある。「修身」である。気まぐれ、わがまま、むらっ気を取り去り、自分という人間を少しでも立派に磨いていく。これが「修身」である。上に立つ者の必読書とされる「大学」が最も重んじるのも「修身」である。身を修めていない小人が上に立つと災害が並び至る、とも指摘している。その修身の土台となるのが格物・致知・誠意・正心である。
2. 心は発達するものであり、七つの段階がある。第一は自己中心の心。赤ちゃんがそれである。自分の欲求だけに生きている。第二は自立準備の心。幼稚園児の頃である。用事を手伝ったりする。第三は自立力の段階。成人を迎え自立する。第四は開発力の時代。困難に立ち向かい、開発改善していく力を持つ。年齢的には 30~40 代か。第五は指導力。40~50 代になり部下を指導していく。第六は包容力。第七は感化力。その人がいることで自ずと感化を与える。最高の状態と言えよう。

(参考:「致知」:2013 年 2 月号)

海外事情

日本の飲食店全体の 1 割 (シンガポール)

1. 経済成長に沸くシンガポールは、今、空前の日本食ブームが訪れている。オーチャード通り (日本の銀座に相当) を歩いてみると、若者の多さに驚く。歩くスピードが速く、おしゃべりの声であふれている。しばらくすると、「やきとり」と日本語表記された赤ちょうちんを吊るした店や日本のラーメンチェーン店「一風堂」を見かける。午後 3 時にもかかわらず、店内は多くの客で賑わっている。
2. 各地の大型ショッピングモールには日本食専門店街が次々とできている。日本貿易振興機構 (ジェトロ) によると、日本食の飲食店は 500~600 軒あるという。これは全飲食店の約 1 割だ。このブームを逃がす手はないと、自治体や企業は売り込みに躍起だ。

(参考:「WEDGE」2012 年 12 月号)

古典に学ぶ

富は卑しいものではない

「孔子の言わんと欲する所は、道理をもった富貴でなければ、むしろ貧賤の方がよいが、もし正しい道理を踏んで得た富貴ならば、あえて差支えないとの意である」

(解説) 孔子が説こうとしたことは、こういうことだ。「心正しい方法で得た富や地位でないなら、そんなものはいらぬ。貧しいままでよい。正しい道理にのっとって得た富や地位なら、持っていて何ら恥じることはない。

(参考: 渋澤健「渋澤栄一 100 の訓言」: 日経ビジネス人文庫)